

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)
2	日 時	令和2年9月24日 午後1時30分から午後2時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎 大会議室
4	出席者	中島完二委員長、岡村紀子副委員長、福嶋子真委員、東稔丈委員、久保田敏彦委員、中田平男委員、岩垂直次委員、藤原光弘委員、松本遊穂委員、丸山昌則委員、小原太郎委員、田中浩二委員、召田洋一委員、平田米子委員、小林みずき委員、岡村公夫委員、小池晃委員、清澤栄三委員(18人/23人中)
5	市側出席者	高嶋農林部長、堀内農政課長、小林農政課長補佐兼農業政策係長、小穴生産振興担当係長、齋藤生産振興担当係長、中村集落支援担当係長、平田マーケティング担当係長、農業政策係高野副主幹、農業政策係鈴木主査、二村農業再生協議会事務局次長、佐藤耕地林務課長、城取耕地担当係長、高木農業委員会事務局長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人
	記者	0人
8	会議概要作成年月日	令和2年9月25日

協 議 事 項 等

1	会議の概要
	(1) 開会(岡村副委員長)
	(2) あいさつ(中島委員長)
	(3) 協議事項
	①安曇野市農業・農村振興計画に係る令和元年度実施状況の点検・評価報告書(案)について
	②『令和2年度推進委員会報告書』を受けての市の今後(令和3年度以降)の取り組み方針(案)について
	③次期計画策定に係る今後の進め方について
	(4) その他
	(5) 閉会(岡村副委員長)
2	協議事項
	(1) 安曇野市農業・農村振興計画に係る令和元年度実施状況の点検・評価報告書(案)について
	(2) 『令和2年度推進委員会報告書』を受けての市の今後(令和3年度以降)の取り組み方針(案)について
	【主な意見等】
	委員：前回までの委員会での意見が反映されている。評価報告書にダイレクトに盛り込んでいただき驚いた。短期間でよく反映してもらった。この会議が有効に活用されていると感じた。今後もこのような形でやっていってほしい。
	委員：安曇野ブランドの発信に関連することとして、ふるさと納税の返礼品として米、りんご、加工品など農産物は扱われているのか。
	事務局：産直センターに依頼して、農産物や農産物加工品を返礼品として扱っている。
	委員：安曇野インター東の開発については、既存の市内の店舗と競合するような出店内容で、優良農地が開発されてしまうことに疑問を感じる。商業地に近いところ

の農地は開発される一方で、離れたところでは、なんとか農地を維持し、農業でがんばらなければならないという格差が生まれているのではないか。農地は、法律で開発が規制され保護されてきたと思うが、現状は、田園都市構想に見合った施策となっているか。開発するにしても安曇野らしさを考えるべきではないか。

委員長：インター東の開発については、安曇野市のまち・ひと・しごと総合戦略にも位置付けられて事業である。事務局から意見をお願いしたい。

事務局：難しい問題だと認識している。市の将来都市像を「田園産業都市」としており、農業と産業両方を発展させることが必要ではあるが、バランスをどうとるのが悩ましいところである。松糸道路の計画でも優良農地がルートにかかり、そこで営農している認定農業者の経営にも大きく影響することが懸念されるが、農業政策を担当する部署として対策がなく、非常に悩ましい。

委員長：高家産業団地の拡張においても、一等米が生産できる優良農地だったところが、未来投資促進法により、農地の規制が外れ、開発されることとなった。非常に難しい問題ではあるが、農地の維持についてできる範囲で対処していく必要がある。

委員：わさび田も埋め立てられて宅地になっているところが見受けられる。静岡県の伝統的な農法を継承した水わさびの栽培が、2017年に日本農業遺産に、2018年には世界農業遺産に認定されている。ぜひ、安曇野でもこれらの事例を参考に、わさび栽培の振興を図ってほしい。

事務局：わさびの振興については、第2次計画の中にも入っているが、次期計画でも引き続き実施していきたい。

委員：今回の報告書の付帯意見に「農業経営」という観点を盛り込んでもらったことは評価できる。農業は、1人でやっても経営者である。県で銀座NAGANOを作ったように、どうやって売るかなど、経営支援として、行政も取り組む必要がある。大きい事業者も個人も自立して継続して収益をあげることが必要なので、農業経営を行政が側面からサポートすることについて、政策の中に入れてほしい。

委員長：3月に国の食料・農業・農村基本計画の見直しがあり、兼業農家や小規模農家への補助もしていこうという方向性が明確となっている。

委員：作物ごとに、一反歩あたり栽培するには経費がどれだけかかって、収益がどれだけ出るというような資料を出してもらえるといいのではないか。若い世代が就農する際にも参考となる。

事務局：それらの数値は、既に県でまとめて公表されているが、市民のみなさんに見えやすくするようなことは考えていきたい。

委員長：本日出た意見をふまえ、最終的な報告書に反映させていく。なお、本日の会議以降、何かご意見等があったら今週中に事務局にご連絡を。そのうえで、報告書に反映させる、させないは私に一任させていただければと思いますがいかがでしょうか。

委員一同：承認

### (3) 次期計画策定に係る今後の進め方について

#### 【主な意見等】

委員：アンケートの内容は具体的にはどのようなことを予定しているか。

事務局：アンケートの目的は、基礎資料のため。広く安曇野市の農業者を対象に、農業者の農業経営の実態、10年間の変化、今後の農業農村地域の見通し、また、政策

的には、国県市の政策に期待することなどを把握し、次期計画策定につなげる予定。

委員：農家の高齢化の進行を感じているので、10年後の就農者の実態が把握できるような設問を考えてほしい。

事務局：具体的には、まず、個人の属性を聞き、農業経営として、農業形態、作付けや農地の状況、農業所得や販路、今後の農業経営や後継者、10年前からの変化の把握の設問を設け、政策的な部分としては、農村振興についてお聞きすることを想定している。今日いただいたご意見は、参考とさせていただきます、信大の小林先生からもご意見をいただき進めたい。

委員：地域ごとに実態が違うと思うので、地域別にわかるようなデータにしてもらいたい。

以上